

## 序

北海道農業はこの四半世紀の間に土地基盤整備、大型機械化、規模拡大が進み、最新技術の導入定着とあいまって生産性は著しく向上した。そして従来の原料供給型から総合的食糧供給型へ進路も拡幅しようとしている。

しかし、恒常的に頻発する冷湿害や作付作目の単純化が惹起する連作障害などによる生産不安定性という問題を内包しており、また、食生活の高級化、個性化に伴い消費者、実需者のニーズに合った安くて良質な食糧、加工原料の供給も大きな課題となっている。

道内の農業試験研究機関はこれらの課題や要望に応えるべく技術開発に努めているが、とりわけその中核である品種開発については初期世代での品質検定、加工適性検定、暖地利用あるいはバイオテクノロジーなど先端技術の手法による育種年限短縮等、更には民間団体との共同研究の推進により強力に取り組んできたところである。

昭和54年3月に北海道立農業試験場資料第9号として「農作物優良品種の解説(1961~1977)」を刊行してから数年を経たに過ぎないが、この間に主要農作物、特産的果樹、野菜、花卉、あるいは牧草、飼料作物等25作物について90品種が北海道の優良品種として普及に移されている。

本書はこれら品種の特性を紹介し普及に当たっての参考に供するため刊行したものである。本書の利活用が北海道農業の一層の生産性向上に役立てれば幸いである。

昭和61年11月

北海道立中央農業試験場長 森 義 雄

## はじめに

1. 登載した品種は、1978年(昭53)から1986年(昭61)の9年間に、北海道農業試験会議(成績会議)の検討を経て、北海道種苗審議会で優良品種に決定された全品種をとりあげた。その作物別の品種数はつぎのとおりである。

普通作物	44品種
特用作物	8 //
果樹	9 //
野菜	17 //
花卉	1 //
飼料作物	11 //
計	90 //

2. 付表の北海道登録品種一覧には、1985年(昭60)に定められた北海道農作物優良品種認定要領によって、登録簿に登載ずみの全品種をとりあげた。
3. 記載内容は、北海道農業試験会議で検討された資料に基づいているが、その後に変更または追加されたことが明らかにされているものは、それに従って書き改めた。
4. 記事は、後木利三前原原種農場長が執筆し、企画編集担当が各農業・畜産試験場の育種担当者の協力を得て校閲した。
5. 企画編集担当

中川 渡	砂田 喜与志	佐々木 多喜雄
三木 英一	平山 秀介	天野 義克
大橋 尚夫	村上 紀夫	田川 雅一